

2018年度 博物館実習展アンケート分析結果に関する報告

2018年度関西大学博物館実習展では、博物館実習履修者により、「HAKO—20世紀以降における文房具としてのハコ—」「食いだおれ—近世から現代へ—」「畏れの姿—江戸時代の人々の視点—」「茨木の潜伏キリシタン—ザビエル像発見のエピソード—」の4つのテーマで展示を行った。本調査では、各展示及び実習展全体の評価について分析・検討を行っていく。

【調査方法】

2018年度関西大学実習展の来館者を対象に、会場である関西大学博物館 特別展示室にて、2018年11月11日から同年11月16日までの6日間実施した。

用紙の配布及び回収は展示室入口で行った。配布の際、来館者にアンケートの協力をお願いした。回答者はそれぞれ展示室内で記入の上、帰る際に受付にて回収した。

【来館者の構成について】

総来館者数456名のうち、回答者は369名であり、80%の来館者に回答してもらうことができた。

期間中の来場者は、期間中徐々に増えてお

り、最終日はそれまでのほぼ倍数の結果となった（図1）。

回答者の性別の内訳は男性159名、女性204名、無回答6名であった。

年齢についての回答では、「20代」と「10代」で半数以上を占めた（図2）。

住所の項目では、大阪府からの来場者は239名（60%）、そのうち吹田市からの来場者は85名（約36%）を占めた。それ以外では兵庫県からの来館者が一番多い結果となった（図3）。

回答者の所属内訳は、「本学学生」が半数以上、次いで「一般」の人数が30%近くを占めた（図4）。

今回の実習展の認知経路は「授業」が約30%、「友人・知人から」と「ポスター・広告」がそれぞれ26%、24%となった（図5）。

博物館・美術館の利用頻度は、「半年に1度以上」と約30%の人が回答している反面、今年度から新たに加えた項目「ほとんど行かない」と答えた人も約28%もいた。「週に1回以上」は約5%、「月に1回以上」と答えた人は約17%になった（図6）。

関西大学博物館への来館回数は、「初めて」が約40%と最も多く、次いで「2～4回」が約33%となった（図7）。

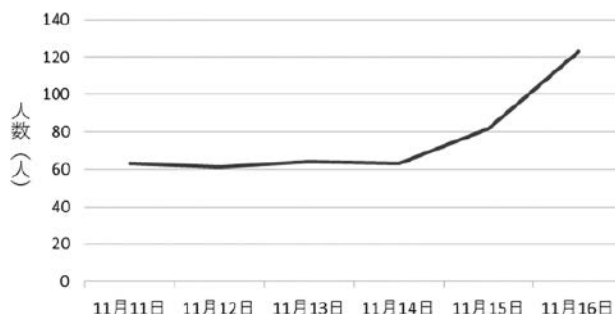


図1 期間中の来場者数の推移

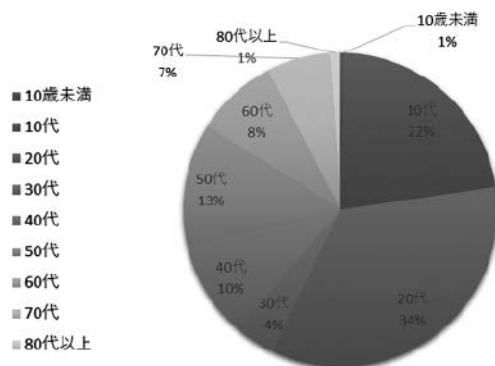


図2 回答者の年代別内訳 (369名)

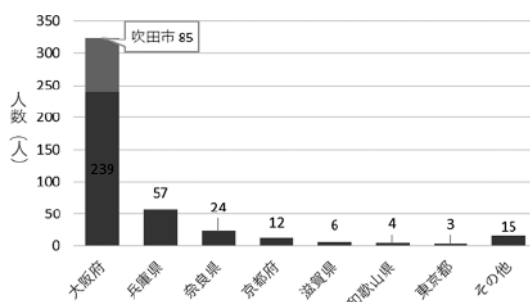


図3 回答者の住所別内訳 (360名)

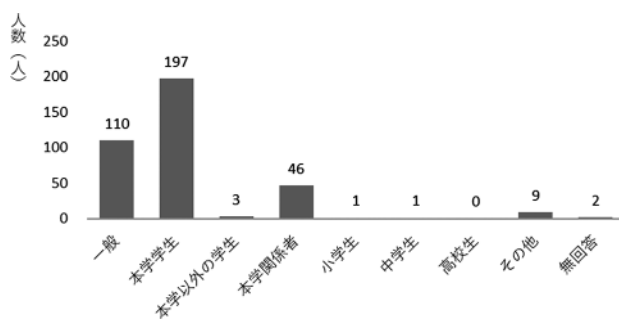


図4 回答者の所属内訳 (369名)

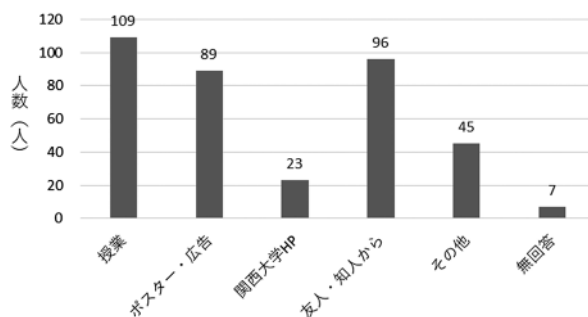


図5 認知別の内訳 (369名)

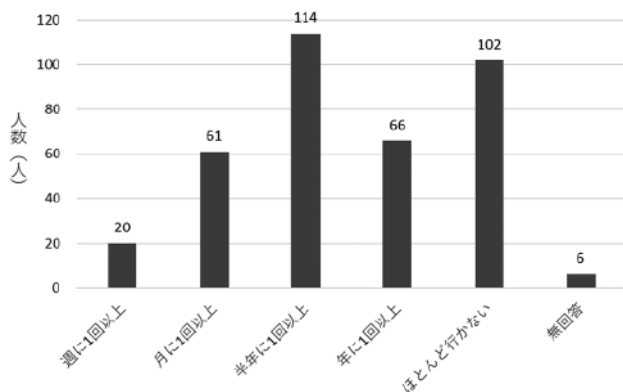


図6 博物館・美術館等の利用頻度別の内訳 (369名)

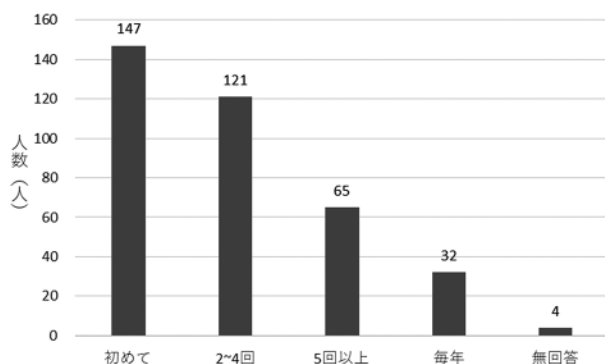


図7 来館回数別の内訳 (369名)

【考察】

2018年度の実習展では、アンケートに回答して頂いた割合が来場者の8割となり、例年以上に本学の学生のみではなく多くの人にご協力いただきました。受付での声掛けが功を奏した結果だと考えられる。

ただ、過去のアンケートの考察等を参考に「裏面につづきます」と表面文末に一言付け加えたが、気付かない方が多かったのか、やはり裏面の回答が全くされてない、あるいは表面の「HAKO—20世紀以降における文房具としてのハコ—」の自由記述欄に他展示に関する記述がたまに見受けられた。両面ではなく片面2枚にするか、あるいは片面にまとめるか今後改善が必要だと思う。

来場者の構成は、本学学生が最も多いこと

から年齢別には「10代」「20代」、認知の項目では「授業」が一番多い結果になったが、必見すべきところで「友人・知人から」「ポスター・広告」の回答も伸びており、近年のSNS人気や広告媒体の貢献度も一定程度考えられる。意外なところでは、奈良県からの来場者が24名とより身近な京都府からの来場者12名の倍数いたことである。

また今回より博物館・美術館等の利用頻度の項目で「ほとんど行かない」を増設した。その結果、該当者が約28%もいた。これら回答者は、授業で来館した本学学生が多く含まれており、普段はあまり博物館に関心のない人も多かったのだろうと考察される。

(2018年度博物館実習展 アンケート班一同)

HAKO ―20世紀以降における文房具としてのハコ―

【要約】

共通項目すべてにおいて平均値が4点以上になり、概ね高評価を得られた。一方では、展示の解説については「悪い」の評価が他より多く、平均値も低いなど低評価が目立つ結果となった。

班独自の質問項目では、印象に残った箱がかなり分散した様子がうかがえる。

また、自由記述欄では、展示に対する意見・感想をいただいた。

【方法】

全体の共通項目として展示内容、見やすさ、解説、雰囲気について5段階での評価を求め、その他に展示品の中で最も印象に残った箱とその理由に関する質問と自由記述の質問を用意した。

【結果】

〔1〕 共通項目について

5段階評価 5=大変良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=大変悪い

なお、各項目の合計及び算出した平均値には、無回答を含まない。

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値	無回答
展示内容について	142人	156人	51人	3人	0人	352人	4.24	17人
展示の見やすさについて	170人	145人	34人	3人	0人	352人	4.36	17人
展示の解説について	128人	145人	71人	7人	0人	351人	4.12	18人
展示全体の雰囲気について	146人	146人	57人	2人	0人	351人	4.24	18人

〔2〕 班独自の質問について

(i) 「展示品の中で最も印象に残った箱はどれですか」に対する回答（複数回答可）

硯箱	1人	布製筆箱	1人
木製の筆箱	15人	缶ペンケース	3人
（うち 木製の筆箱②）	7人	筆箱（総称）	7人
セルロイド製筆箱	12人	唐獅子文箱	4人
ブリキ製筆箱	10人	高岡漆器	14人
紙漆の筆箱	3人	彩蒔醬文庫	11人
携帯用硯箱	2人	紙文箱	8人
アーム筆入れ	10人	伝 満洲鉄道の箱	21人
マチック筆入	18人	満洲鉄道のメダリオン	4人
（うち ピンクレディー）	4人	文箱（総称）	11人
電子ロック筆入	18人		

(ii) その理由について（一部抜粋）

- 満洲鉄道の箱：初めて見る箱だから。
- 伝一満洲鉄道の箱：どこから持ってきたのか気になりました。
- マチック筆箱が昭和四十五年頃からあるのに驚きました。
- 電子ロック式筆箱：子どもの頃、鍵がかかった筆箱にハマった時期がありますので。
- 電子ロック筆箱：金庫代わりというのが面白い。
- 紙のハコ：古いものが多い中で現代感があったので目についた。
- 木製筆箱：あまり見たことがなく、細工が細かった。
- プリキ製筆箱がレトロ感満載で印象に残りました。
- ピンクレディーの筆箱：その時代を反映するものに思えたから。
- 高岡の文箱：細工がきれい。
- 彩蒔髹文庫：繊細な模様。
- 木製筆箱：見た目的に筆を入れていたのがよくわかる形状をしていたので。
- 木製筆箱②：模様がきれい。中が2つで区切られてて実用品っていうのがわかった。
- 満洲鉄道の箱、満洲鉄道のメダリオン：歴史を感じるところ。
- マチック筆入：小学生の時にみんなが使っていたものを展示で見るのが新鮮だったから。
- 螺鈿の箱です。初めて、近くで見て、美しさに目を奪われました。本当にキレイで貴重なものを見れてよかったです。
- マチック筆入れがなつかしく感じられて印象深かった。
- 文箱が最も印象に残っています。古来よりつかわれていた筆箱の原型を知ることができたからです。
- 伝一満洲鉄道の箱：大きかったから印象に残った。
- 伝一満洲鉄道の箱：満洲鉄道の備品は大変珍しいものだった。
- 布製筆箱：解説の中に「当時女性向けのかわいらしい筆箱が主流であったため」とあり、当時の流行を知れるのが良かった。
- 筆箱：年代別に筆箱をあんなにたくさん見たのは初めてで興味深かった。
- 紙文箱：使いやすさと美しさ。
- 高岡漆器の文箱が美しく良かった。
- 香川漆器：外国（アジア）の技法を取り入れているところ）。
- マチック筆入、電子ロック筆入がなつかしかったです。小学校入学を思い出しました。
- セルロイドの筆箱：実際に使っていました。シンプルで使いやすいです。あんまり故障しませんよ。
- マチック筆入：小学生の時使っていたものと似ていたから。
- アーム型：筆箱とはおもえないようなユニークなデザインだった。
- 電子ロックがかかる箱。筆箱に果たして必要なのかその性能……!? と感じてしまいました。でも面白いですね。
- セルロイド製：使ったことはないが名前は聞いたことがあるので。
- ピンクレディーの筆箱：流行りのものがモチーフになるのがおもしろい。
- 香川漆器の文箱：出身地の漆器なのにしっかりと見るのがなくてよい機会だった。
- プリキ箱：男子に流行したとあったが逆に女子は何が使われていたか気になったから。
- 木製の筆箱：寄木細工でつくられていて目を引いた。
- 漆器文箱3点：それぞれ装飾がとてもきれいだったので。
- ロックのかかる筆箱：現在にもロックのかかるものを見たことはあるが、自身が思っ

ていた以前からあったと知り驚きました。

- 高岡塗の文箱（螺鈿）：高岡という銅器しか印象になかったから。薄い螺鈿の使い方の新しい方法を知った。
- 缶ペン：私のいた学校では音がなるので禁止だったので、印象が残った。
- 螺鈿の文箱：文箱といえば普段使いしそうなものなのに、伝統技術を用い高級感のある仕上がりになっており、道具としての役割以上の美を感じました。
- 筆箱：筆箱のはじまりから今の筆箱までの時代の流れがおもしろかった。
- セルロイド製筆箱：この材質の筆箱があるというのは、初めて知ることができた。
- ブリキ製筆箱（現代ではあまり見かけないのとブリキといえばオモチャのイメージがあって筆箱に使われているのは意外だった。
- 満洲鉄道の箱：満洲鉄道の箱という視点で「ハコ」を考えたことがなかった。
- 携帯用硯箱：大小様々な筆を収納できるようバネが使われているところが面白かった。
- 戦中に使われた紙にうるしをぬった箱：資源が少ない中での工夫が見てとれるから。
- 電子ロックの筆箱。うっかり鍵をなくしたら開けられないのでしょうか……。
- アーム筆入：丈夫な箱だとは見た目からは想像できないものだった。
- アーム筆入：CMが印象的、ほしいと思っていたことを思い出しました。今でも強いものに象が踏んでもこわれないと表現することがあります。
- 南満洲鉄道の展示物が1番印象に残りました。「メダリオン」の状態がよくとてもおどろきました。
- 彩蒔醬文庫：日本の伝統的なものとイメージが違った。

[3] 自由記述の内容について（一部抜粋）

- 展示の流れが少し不明瞭に感じた。箱＝文房具、筆箱は拡大解釈では？
- 箱で筆箱と文箱だけというのはすこしさびしい。箱は運ぶ内容にあわせて形を変えるのでは？もう少し考察が必要かも。
- 実際に開けたり閉めたりしてみたい。実際に手に取れるものがあれば。もう少し展示品が多くあればうれしかった。デザインがどうなってるかなど見たい。
- 展示品のおき方がきれい。
- 欧米の文化が入ってきていた時や、戦時中に使われていた筆箱が時代背景を映し出して印象に残りました。
- 布製筆箱の説明で“当時女性向けの～”とあるが、その女性向けの筆箱が何かわからない。
- 今は、当たり前のように使っている筆箱も、素材によって感じや使い方が違い、日本の技術向上に伴い、形や便利さが変わっていく様子などがわかって、1つ1つの説明もとてもわかりやすかったです。
- 文箱を上（いろんな角度）からもっとまじまじと見れると嬉しいです。
- 日本の文化は江戸時代婚札ちょうどにみられる箱の多様さに表れるようにハコ文化だと思いますのでその中でも文房具の箱にしようと思ったのも良かったと思いました。
- 一つ一つ丁寧に説明にしていたのでわかりやすい説明だった。
- 解説のペースがゆっくりでとてもわかりやすかったです。質問にも丁寧に答えていただきそれとも良いと思いました。
- 図書館から借りずに個人蔵のものだけでよくこれだけのものが集まったと思った。
- 金属製品は回収されてしまったとの説明があったのですがもう残ってないのでしょうか？どれくらい現存しているか知りたいで

- す。展示の仕方がとっても上手ですって頭に入ったので良かったと思います。
- ハコという着眼点が斬新ながらも扱いにくいテーマだと思うが、きちんと説明されてよかった。資料数が多く見応えがあった。
 - シンプルなテーマで文化や産業がうつりかわる様がわかってとてもおもしろかった。
 - 自分が小学生の時に使っていた筆箱（たくさんふたがあるもの）、今ではほとんどといっていいほど見なくなってしまったのでとても懐かしかったです。ポスターが少し寂しい感じがしました。
 - 鉄道のハコなどの展示ではキャプションの色をもっと変えるなどして他と区別した方がよいと思いました。
 - 子供時代のなつかしい文房具が並んでいました。時が経つと日常品も“文物”になるのですね。
 - キャプションの文字が小さいように思う。
 - キャプションが色分けされていてすごいと思った。
 - 年表のパネルの文字が大きいせい或少しアンバランスに感じました。そのとなりにあった出典ですが、URLは継字で見にくく感じたので改善した方がよいと思いました。
 - 単にきれいに並べた。解説と資料が結びつきにくいので、もっと工夫が必要と思う
 - 列立てて「ハコ」の歴史が展示されていて興味深かった。しかし写真が少し小さく感じたのでもう少し大きくした方が見やすいと思う。
 - 年表もはられてあるのが、展示品とあわせて物事の背景を理解しやすくしてよかった。ただ展示が少しシンプルでちょっと物悲しい感じがした（文箱のあたりとか）。
 - 箱の年表に昭和初期に木もセルロイドもあると書いてあったが、セルロイドがあまりわからなかった。
 - 筆箱の年表がおもしろい。文箱をあまり知らないで身近に感じられなかった。
 - 目の付け所が面白いと思った。よく現物を集められたなと感じた。
 - 南満洲鉄道株式会社においてあったものが見れて感動しました。
 - 筆箱と文箱の歴史は最初においてももらった方が展示がわかりやすいと思った（もともと一つでわかれた～etc）。突然文箱が出てきて一瞬「？」となってしまったので。
 - ユニークなテーマで面白かった展示の数も良く、見やすかった。
 - 他よりフォントが大きくて見やすかった。
 - 文具を通して「当時の社会の風潮」は見えてこなかった。解説がそのようなテーマに沿うものになっていなかったように感じた。あと満洲鉄道のメダリオンを展示した意図がわからない。ハコとほとんど関係ないと思うが。
 - ビニール製筆箱は開けた時の写真も一緒に展示されていて面白いし、こうなってるんだと思えてよかったので、アーム筆など構造がなじみのないものもそういった写真付きの解説があっても良いと思いました。
 - 章ごとに色分けされてて見やすかった。年表があってわかりやすかった。
 - 筆箱の中身が見えるもの、見えないものの差がよくわからなかった。多面式など実際に開いているところが見たかった。
 - 身近にあるハコ筆箱に注目される親しみがあります。そのなかで現代の変化を解説してあり、わかりやすいものでした。ただキャプションタイトルにルビがあればなお一段と理解がすすんだのではないのでしょうか。たとえば文箱（ふばこ）は多くよめないかなと思いました。
 - 「第一章筆箱」の展示場所が当初わからなかった。わかりやすく順路を示していただき

たかった。解説文パネルを縦書きにした理由がよくわからない（ダメということではないが）。全体をつなぐストーリーを上手く示す必要があると思う。

- コンセプトは良いです。ハコと箱の文脈が強く伝わる展示方法を。
- パネルなどの字は第1章第2章と同じ方が見やすかったかもしれません。
- 一通りすべて説明していただき質問にも答えていただけたので嬉しかったです。ただ、最後の展示だけ、その展示の意図が少々わかりにくかったです。
- 展示物になつかしさをかんじるものもありました。つかい手の視点と作成者の視点の両方があるとより、展示が立体的になるのではないかと感じました。
- 展示されている筆箱がとてもなつかしかったです。昔から箱は私たちの身近にあり一緒に進化していったんですね。
- 目的がいまいちわからない上につまらない。
- 「ハコ」というテーマって何が展示されているのかな？ と興味を持ちながら来ました。

【考察】

本展示の共通質問項目においては、どの設問も平均4点以上の評価を得られ、概ね好評だったと思う。しかし、他の項目に比べ解答の平均値がやや低い展示解説に関しては、改良の余地があったと考える。自由記述と照らし合わせると、実習生による解説が「丁寧」「わかりやすかった」と好印象を与えたことがわかるため、キャプション等の解説により工夫を凝らす必要があったのではないだろうか。また、キャプションの「文箱」をはじめとする言葉にルビがないためにわかりにくいという指摘が多く寄せられた。日頃あまり聞きな

じみのない言葉に対し、来館者の立場から考えてわかりやすく解説をするべきだったと考える。

最も評価の平均値が高かった見やすさに関しては、筆箱の歴史を示す年表がわかりやすい、見やすいという声がある一方、写真パネルが小さい、キャプションのフォントをすべて統一すべきであるという指摘が多かった。また、筆箱の中が実際に開いているところがみたかった、中身が見えるものとそうでないものの差がわからないという意見もあり、展示スペースに限りはあるものの、中身が見えるように写真パネルを用い、すべての筆箱に対して同様の展示をする等の工夫を施すべきであった。

同じく評価の高かった雰囲気や内容については、「ハコ」というテーマにおもしろみを感じる、興味深かったという意見が見られたが、筆箱と文箱の繋がりがわからない、テーマと関係のない展示物ではないか、意図がわからないという指摘が多く見られた。この点に関しては、実習生が直接観覧者に説明する、あるいは説明がなくてもわかるようキャプション等に説明文を記載するべきだったのではないかと考える。

展示品の中で最も印象に残った箱は何かという質問については、大方予想通り伝満洲鉄道の箱が最も多くの関心を集めたことがわかる。一方、マチック筆入や電子ロック筆入等には実際に学生時代に使用していたため懐かしさを感じ印象に残った、といった声が年配の観覧者を中心に多く見られ、展示品を通して身近さを感じてもらえる展示を行うことができたと感じた。

（文16-0764 山口真穂）

文字を伝える

- ① 筆記用具
- ② 各時代の記録手段
(保存方法を体験を通して伝える)
- ③ 家族、親世代(30・40代)
- ④ (体験)学習
- ⑤ 文房具メーカー等と共協賛
- ⑥ 電車、回覧板、学校

「ふてばこ展」学習環境の変化

ストーリー: 時代の流れとともに筆箱の変化も見えてもらい、学習環境の変化による良い面・悪い面を考えるきっかけにしよう。また、制作者の意図や利用者の感想も展示に反映させることで普段使用している筆箱に込められた意見を知ってもらう。

来館者: すべての世代

活動: 「未来の筆箱を考えるワークショップ」
「クイズラリー(展示内容に限定)」

資金供給: (株)サンスター文具などの文具メーカー
(本館に近い場所で開催)

マーケティング: コミュニケーション・スポンサーの商品で販売
地自治体・学校への宣伝
文具店にポスター貼ってもらう

実習展のふりかえり 展示企画案の再検討

食いだおれ ―近世から現代へ―

【要約】

共通項目すべてにおいて平均値が4点以上となり、概ね高評価を得られた。

一方では、展示内容については最低評価を付けた人がおり、解説の平均値が他の項目よりもやや低いなどの低評価も目立つ結果となった。

班独自の質問項目では、「食いだおれ」に対するイメージが変化した人が多かった様子が見えてくる。また、自由記述欄では質問内容の回答のほか、展示に対する意見や感想をいただいた。

【方法】

全体の共通項目として展示内容、見やすさ、解説、雰囲気について5段階での評価を求め、その他に「食いだおれ」のイメージに関する質問と自由記述の質問を用意した。

【結果】

〔1〕 共通項目について

5段階評価 5=大変良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=大変悪い

なお、各項目の合計及び算出した平均値には、無回答を含まない。

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値	無回答
展示内容について	134人	117人	47人	4人	1人	303人	4.25	66人
展示の見やすさについて	114人	140人	48人	1人	0人	303人	4.21	66人
展示の解説について	117人	121人	60人	4人	0人	302人	4.16	67人
展示全体の雰囲気について	137人	125人	38人	2人	0人	302人	4.31	67人

〔2〕 班独自の質問（「食いだおれ」のイメージ）について

（1） これまで「食いだおれ」にどのようなイメージを持っていましたか。（一部抜粋）

- ・大阪
- ・空腹を満たす。
- ・大阪の名所、名物である。
- ・大阪の戦後文化が構築されている。
- ・「大阪名物くいだおれ」と「くいだおれ太郎」を表す固有名詞という認識だった。
- ・庶民のエネルギー
- ・くいだおれ太郎
- ・くいだおれ太郎とともに定着した。
- ・食べることに関西人は興味があるからでき

たイメージだと思っていた。

- ・倒れるまでひたすら食べる。
- ・昭和期から使われ始めた言葉だと思っていた。
- ・食べ歩くというイメージがあった。
- ・大阪人の食へのこだわりというイメージがあった。
- ・大阪が食いだおれと呼ばれていたことは知っていたが、飲食店が多いイメージはなかった。
- ・大阪の文化
- ・「天下の台所」と似たようなイメージがあった。
- ・中年の方が飲み食いしているイメージがあ

った。

- 道頓堀
- ネガティブなイメージがあった。
- 陽気なイメージがあった。
- 大阪の食堂の名称。・明るい、面白い。
- よく知らない。
- 様々なものが食べられる店
- 大阪の商人のイメージ
- 大阪にはおいしいものがたくさんある。
- 深く考えたことがなかった。
- 現代に発生したイメージ
- 食い道楽
- 品がない。
- 大阪にかかせないもの
- 安くて美味しいものをたくさん食べるというイメージ

(2) 展示をご覧になって「食いだおれ」のイメージがどのように変わりましたか。
(一部抜粋)

- 自分が持っていたイメージよりも昔からずっと食いだおれの表現があった。
- お酒等のテーマもあったため、食の中にも飲のイメージも加わった。
- 近世から続く長い歴史がある。
- 食に強みを持っているイメージを強めた。
- 「食いだおれ」が商標の「くいだおれ」と異なることがわかった。
- 近世から飲食店が多くあり、庶民にとって大きな娯楽だった。
- 食への大阪人のこだわりを感じた。
- 「大阪名物くいだおれ」の理解が深まった。
- 「大阪名物くいだおれ」閉店して何もなくなっていたと思っていたが、「くいだおれ太郎プロジェクト」として存続していることがわかった。
- 「くいだおれ太郎」の印象が強くなった。
- 大阪の食文化の多様性がうかがえた。
- くいだおれ太郎が有名になった理由を理解

できた。

- 杉狂児がくいだおれ太郎のモデルになっていたことを初めて知った。
- くいだおれ太郎が意外と新しいとわかり、面白かった。
- 大阪の食いだおれに関するルーツがわかった。
- 「くいだおれ」という飲食店があったことを初めて知った。
- 「くいだおれ太郎」だけではなく、昔から大阪人の心を表す言葉ということがわかった。
- 昭和期から時代とともにあったというイメージに変化した。
- 大阪の「食いだおれ」のイメージは「くいだおれ太郎」と関係していることがわかった。
- 大阪＝食いだおれのイメージが強くなった。
- 人形＝食いだおれという意味でないことがわかった。
- 「大阪名物くいだおれ」がどのようなものを売っていたのか知ることができた。
- 「食いだおれ」の言葉自体に歴史があることがわかった。
- 大阪が食いだおれの地と呼ばれるようになった理由がわかった。
- イメージは変わらないが、より親しみが強まった。
- 時代背景を知ることができて関心が深まった。
- 長い年月を経て、大阪は「食いだおれ」というイメージを獲得した。
- 人形のことだけでなく、大阪のイメージを示す表現だったことがわかった。
- 近世から「くいだおれ」という大阪のイメージがあったことを初めて知った。
- 大阪に根付いた食文化を示す言葉
- 時代を経るにつれ、くいだおれのイメージが、キャラクターやデザインなど印象深い

ものに変化している。

- 大阪のシンボルというだけでなく、大阪の発展に貢献してきたのだと感じた。
- 「食いだおれ」は現代に入ってから定着したと思っていたが、江戸時代からすでに「食いだおれ」という言葉が存在していたことに驚いた。
- 「食いだおれ」と大阪のつながりがよくわかった。
- くいだおれ太郎の登場がいかに重要な意味を持つかがわかった。
- 大阪の文化として今後も大切にすべきだと思う。
- 江戸時代から変わらずイメージを保っているというのはすごいことだと思った。
- 歴史的変遷があり現代に至るということがわかった。
- 大阪人に長く親しまれている様子が伝わってきた。

[3] 自由記述の内容について（一部抜粋）

- 展示解説が筋に沿っていたため、わかりやすかった。
- キャプションは縦書きにしたほうがよかった。
- 意外性がなく、新たな発見がなかった。
- 創業者の山田六郎氏がくいだおれ太郎と似ていると思った。
- 「Ⅱ近代」のキャプションで図があったのが、よかった。
- キャプションの字が小さい。
- パネルのフォントでは、遊び心があってよかった。
- 壁面の展示が少ない。
- 近世の大阪の様子が資料を見ることで理解を深めることができた。
- 「Ⅰ近世」の展示のキャプションの解説が不十分であり、展示されている意味がわから

ない資料があった。

- 「Ⅱ近代」の街の図に関するパネルが見えにくく、どれがどことリンクするのかわかりにくかった。
- 意識調査アンケートを見て、「食いだおれ」のイメージが大阪以外にもあることに驚いた。
- 商標ラベルの拡大版があったことはよかった。
- 「Ⅲ現代」の展示は見ごたえがあったものの、「Ⅰ近世」「Ⅱ近代」の資料が少ないのは物足りなかった。
- ポスターに興味がひかれ、インパクトがあった。
- テーマに沿った資料が豊富だった。
- 『摂津名所図会』の複写は、もう少し美しく整えたほうがよかった。
- マッチの展示が面白かった。
- 書物のくずし字が解読するのが難しかったため、全ての書物を翻刻したほうがよかった。
- 『道頓堀』の食に関する記事が探しにくかった。
- 「食いだおれ太郎」のモデルになった杉狂児が関西にゆかりがないことに驚いた。
- 『東海道敵討元禄曾我物語』（巻三）の赤線部分をどこかわかるように、原本にも印をつけてわかりやすくしてほしかった。
- 「食いだおれ」の語源の「杭だおれ」について全く触れておらず、上辺だけを掬っており、展示としての意味が感じられない。
- 書物の展示が多いので見るだけでは理解しにくいのが、解説を聞くとよくわかった。
- 浮瀬については初めて知った。当時の建物、景色、地図、盃の絵など具体的な展示物があり、印象に残った。
- 大阪は昔から食に深い興味関心がある。
- パネルの位置がやや高い。

- 図絵やグッズを多く取り入れていて、視覚に訴えるわかりやすい展示。
- 複製と実物を明確に区別したほうがよい。(目録では複製かどうか判断できない。)
- 大学の貴重書を展示しており、興味深かった。
- 人形がくいだおれ太郎という名称だということを知った。
- 浮瀬に注目した史料が多く用いられていて、近世の食文化の一端を垣間見ることができた。
- 「くいだおれ」からの派生的なものも展示されていて飽きずに楽しめた。
- くいだおれ太郎命名のエピソード(パスポートの件)が意外と最近のことで驚いた。
- 和本を押さえる道具に気遣いを感じた。
- 現在の浮瀬跡地の様子がわかる写真があってもいいかと思う。
- くいだおれのコレクションを見ることができて嬉しかった。
- 料理屋を力士に見立ててランク付けするという発想が面白い。
- 展示物と解説が別々に配置されていて見づらいところがあった。
- 事前の意識調査があり、展示の趣旨がわかりやすかった。
- 展示史料の翻刻パネルが史料のどこに該当するのかがわかりにくい。
- 大阪の文化と絡めてより広い観点から展示してほしかった。
- 資料がたくさんあり信憑性が高く、時代ごとに区切っておりわかりやすい。
- 天王寺近辺に景勝地があったことは知らなかったのも、勉強になった。
- もう少し解説文の文字にルビをふったほうが読みやすいと思う。

- 解説を聞くとより理解が深まり、展示の意図が伝わりやすい。
- 解説が不足している。

【考察】

共通項目においては、どの質問に対しても平均4点以上の高評価を得ることができたという点はよかったが、解説の平均値がほかの3項目をやや下回った点に関しては工夫の余地があったと考えられる。

班独自の質問では「食いだおれ」に対するイメージが変化したという意見が大半を占めており、企画の趣旨が来館者に適切に伝わった結果だといえる。来館者の回答からは、当班が独自に実施した「食いだおれ」に関する事前意識調査が効果的に働いた結果、「食いだおれ」に対するイメージに変化をもたらした様子がうかがえた。しかしその一方で、「食いだおれ」という言葉と「くいだおれ」という商標の差異が明確に来館者に伝わっていなかったという事実が浮かびあがってきた。アンケートの集計結果からは、学生による解説を受けなかったと思われる来館者が2つの表記を混同している傾向にあると考えられるため、学生による解説が無くても理解できるような展示構成にすべきだったといえる。

自由記述欄においては、「キャプションの文字が小さい」「壁面の展示が少ない」「解説が不足している」といった指摘がいくつかあったものの、「パネルのフォントでは、遊び心があってよかった」「ポスターに興味をひかれ、インパクトがあった」「テーマに沿った資料が豊富だった」など、展示全般に関して好意的に捉える回答がより多く得られたという点は評価できる。

(文16-0111 梅村美彩、文16-0116 江野友香)

- ① OSAKAと食いだおれ^レ
— イメージの形成 —
- ② 近世 → 「京に着だおれ」 「元禄昔物語」を用いて、当時の大阪の食に対するイメージを確立。
近代 → 道頓堀を概観しながら、食の繁栄を見る。
現代 → 本展示のメイン、「くいだおれ」をとり上げる。
- ③ 観光客（外国人・アジア系）大阪以外の人
- ④ 現在の道頓堀ツアーと林氏の講演
- ⑤ くいだおれ太郎プロジェクト & 観光協会^{ポド}
- ⑥ 観光協会協力の地名。
電鉄（国）道、空港（国）道。

実習展のふりかえり 展示企画案の再検討

畏れの姿 ―江戸時代の人々の視点―

【要約】

展示内容、見やすさ、解説、全体の雰囲気について尋ねたところ、全項目で平均4以上の評価を得られた。しかし2や1と回答した人も少なくなく、特に見やすさに関しては他の項目に比べ低い評価となった。

班独自の質問項目では妖怪や鬼に対して怖い、恐ろしいなどマイナスのイメージがあるという回答が多く見られた。

自由記述欄では、質問内容の回答の他に、展示に対する意見や感想をいただいた。

【方法】

全体の共通項目として展示の内容、見やすさ、解説の各項目について5段階での評価を求めた。その他に班別の質問として、妖怪や鬼に対してどのようなイメージがあるかを問う自由記述の質問を用意した。

【結果】

〔1〕 共通項目について

5段階評価 5=大変良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=大変悪い

なお、各項目の合計及び算出した平均値には、無回答を含まない。

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値	無回答
展示内容について	138人	114人	37人	2人	3人	294人	4.30	73人
展示の見やすさについて	121人	116人	50人	7人	0人	294人	4.19	73人
展示の解説について	130人	101人	52人	7人	2人	292人	4.20	75人
展示全体の雰囲気について	131人	115人	41人	4人	2人	293人	4.26	74人

〔2〕 班独自の質問について

「妖怪や鬼に対してどのようなイメージがありますか」に対する回答（一部抜粋）

- 怖い。
- ゲゲゲの鬼太郎。
- 江戸より昔は、恐ろしい地獄の亡者のイメージ。江戸以降は、親しみを持って楽しめるキャラクター。
- 恐ろしい、怖い、気持ちが悪い。
- 恐ろしいけど愛らしさもあるイメージ。
- ただの架空の生き物。
- 怖いというよりもユーモラスなイメージ。アニメやゲームのキャラクターとしてオマ

ージュされているイメージ。

- やばそうなやつ。
- 日本の妖怪は面白おかしく、今から考えれば「なんでそんな妖怪いたんだ」と思ってしまう様なニッチな妖怪がいるイメージ。
- 怖い一方で、コミカルに描かれる対象というイメージ。
- 「怖い」「おどろおどろしい」「気持ち悪い」などマイナスイメージ。
- 身近にいるかもしれない得体のしれないものの。
- 空想の存在であるが、絵本や物語によく出てくるので馴染み深い存在。

- 人がおそれるモノ、不思議なモノを説明するためのモノ、日本の文化の一つ。
- かわいい。
- 人の想像力で形になったもの。
- 地域の伝説や地獄のイメージ。
- お祓いで祓えるイメージ。
- 悪さを働くもの。
- 人がつくりだしたもの。
- 陰陽師。
- 鬼太郎を見ていたので、優しい妖怪も怖いそれもあるイメージ。
- 怖かったり、愉快だったり。
- 憎めない。
- 人々に恐れられているイメージ。
- 本やアニメの影響でどちらかというと娯楽物のようなイメージ。
- 想像したら恐いなと思うものもあるけれど、ぱっと見は可愛いものもある。
- 不気味。
- 異形でありながらも人に社会に生き、そして人々が無意識に信仰する存在。
- 怖いというより信仰の一部というイメージ。
- 怖いけど、アニメ、漫画ではよく題材にされるもの。
- 子どもが悪いことをしないように……昔からの言い伝え。
- 日本人らしく、昔からあって現代でも愛される存在。地獄の文化もアニメなどで親しみ深いと思う。
- 人々の生活や精神性を色濃く描き表現したもの。
- 異形を可視化したもの。
- 水木しげるのゲゲゲの鬼太郎でかわいいイメージ。
- 江戸の怪談は少々グロイイメージ。

[3] 自由記述欄の内容について (一部抜粋)

- なかなかおもしろい。

- 展示に工夫があって面白かった。
- 飛び出る妖怪がとてもいいです。人でも物でも気持ちを込めて相手にすることの大切さを感じました。
- 総選挙が楽しい企画でした。
- 資料が少ないが、投票、関連本の紹介など、工夫している。
- 怖いものの中にも少し笑えるものもあったりおもしろかった。投票も良かった。
- 関西の耳鳥齊や蕪村の妖怪など知らなかったので楽しい。
- 何かのパクリっぽい。どっかでみたことある。
- 妖怪について絵の表現方法に様々のものがあることがわかりました。
- 妖怪などの書物、絵画から江戸文化などの背景なども見て取れ勉強になりました。とても楽しい展示でした。
- 畏れへの考え方の変遷をたどるなら江戸時代のモノだけでは……戯画かわいいです。
- 貴重な資料を見ることができ、ユニークな当時の人の捉え方に興味を覚えました。
- 展示数が少ない。展示名と内容が合致していない。妖怪のイメージがこの展示からは分からない。妖怪としては特殊な作品ばかり。
- 立体的なものなど展示資料にもう一工夫あれば。
- いろいろな妖怪や地獄を見られておもしろかったです。
- 妖怪達がどれもかわいく思えて楽しかったです。
- 大変おもしろい展示でした。
- 何の変化も感じられなかった。
- テーマの選び方がおもしろいなと思いました。また丁寧に解説いただいたので、分かりやすかったです。
- 中世までの地獄の位置付けが曖昧。

- コミカルなタッチの耳鳥斎の絵がメインで、見ていて楽しかったです。書き下しもしっかりパネルで準備してあって分かりやすかったです。
- 解説して下さった方がとても丁寧で良かったです。
- ユーモラスに描いたものの展示はおもしろかった。また、イメージに対する変化を対象にしていたのでよく分かった。スペースの関係であろうが、もう少し説明がほしい。
- 怖いイメージの方が多いですが、絵巻物を見ていると、可愛く描かれているなと思いました。
- テーマ設定が流行というか、安定な感じがした。
- 年表、キャプションのつけ方にもうひと工夫ほしい。
- 最初のごあいさつを見れば分かるとはいえ、もう少し説明が欲しい。
- 耳鳥斎の絵は見たことがあり、前から好きだったので、関大図書館にあるのには驚いた。
- シールの投票がいいと思った。
- 説明のキャプションの文字の大きさが小さかった。
- 展示のパネルが位置高い気がした。
- 誰もが興味を抱き、「投票」を設け、来館者への接点を探る展示姿勢は共感を持ちました。ただ中世の絵巻から近世への「転機」は、よく説明できていないように感じました。
- 展示品が少なくさみしい。
- 可愛らしく、ユーモアがある妖怪が沢山描かれていておもしろかったです。
- ただ怖いといったイメージしか持っていませんでしたが、作品に描かれる人間は笑顔を浮かべている者もいて、これまでの妖怪に対するイメージに新たな概念が加わりま

した。

- 最近やっていた「江戸の戯画」展と同じ作品が出ていたなと思った。戯画は好きなので楽しめた。全体的に子どもウケしそうな印象がした。
- 展示スペースが狭いのでは。
- 絵巻物に描かれている地獄、怖いけれど面白おかしさもありました。
- おそれているというより親しみをもっているという点は面白かった。
- 口頭の解説が面白かった。その内容をパネルにも反映されるとなったら良かったと思う。年表パネルやポスターのデザインがすごくこっていて良かった。
- 展示外にも所々妖怪などの絵を貼ったり、投票できたりして工夫がこらされていて楽しかった。
- 「ごあいさつ」のパネルが色のコントラストと字間の広いため少し読みにくく感じた。絵巻の解説はとても良い。
- 展示点数が少なく物足りなく感じた。
- 実物の展示は見やすかったが、パネルは少し読みにくい印象。キャプションとタイトルと解説の境が分かりにくい。
- 解説の文章が少し見づらい部分があった。担当者の解説は非常に丁寧に分かりやすかった。
- 絵を切ってふきだしをつける工夫は面白いと思った。
- コミカルな絵が多く、おどろおどろしくなりすぎずとても面白かった。
- もっと深く知りたいと思った。
- 妖怪総選挙があったり、手に取れる本があったりと体感できる展示で面白いと感じました。壁のイラストとても可愛いです。
- ゲゲゲの鬼太郎などでしか妖怪を見る機会がなかったのが、スタッフの方が現実でも目を凝らせば見ることができると言い張る

ので私もがんばろうと思った。ろくろ首に会ってみたい。

- 「おそれ」はいろいろな漢字があてられますが、「畏」だったのは何故。
妖怪は耳鳥斎以外も描いていると思います。
耳鳥斎で「おそれ」はあわせえないのでは。
- 怖いイメージしかなかったが、意外とお茶目な資料もあるなどと思った。
- 古文の引用があったと思うのですが、横に現代語訳をつけたほうがより分かりやすかったと思います。
- 資料が一番見ごたえがありよかった。
- 絵の展示の拡大したもののがもっとあると見やすいだろうなと思いました。
- 江戸の怪談は少々グロイイメージがあったので、絵の鬼も怖いと思っていました。思ったよりキュートに描かれていて、親しみがわきやすかったです。
- 江戸以前の妖怪や畏れはどんなものだったのか知りたかった。比較したい。
- 代表的作品年表にこだわりを感じる。見やすい。
- よく知られている妖怪以外にもいろんな妖怪がいることが分かり、楽しかった。

【考察】

共通項目については、全項目において平均4以上の評価を得られ、概ね好評であったと思う。一方で他の項目に比べて回答の平均値が低い展示の見やすさに関しては、自由記述の内容と照らし合わせると、「展示スペースが狭い」「キャプションやパネルが読みにくい」という意見が見受けられ、キャプションやパネルの文字のサイズなどに工夫の余地があったと考えられる。その他にも「資料が少ない」「物足りない」といった指摘も見受けられ、展示スペースの少なさが評価を下げる大きな原因になったことがうかがえる。

班別の質問で妖怪や鬼に対してどのようなイメージがあるかを尋ねたところ、「怖い」、「恐ろしい」などマイナスのイメージがあるという回答が多く見られた。

怖いというイメージが多い中で、今回展示した妖怪や地獄に対し、「可愛い」、「面白い」とする意見が見られ、本展示で伝えたかった妖怪や鬼への認識の変化を理解してもらうことができたのではないかと思う。しかし、変化を感じないという意見も少なからずあることから、今回展示した耳鳥斎や与謝蕪村の作品だけでは変化を捉えるには不十分であったことが考えられる。今回は展示スペースの関係上できなかったが、各時代の妖怪や鬼を描いた作品も展示するなど、内容を掘り下げることができれば、より良い展示になったであろう。

自由記述では、展示した資料に関するシール投票や、妖怪が描かれた本のハンズオン展示に対して「工夫されている」、「楽しい」という意見が寄せられ、好評であった。展示ケースの外や柱に貼ったイラストについても高評価が見られ、展示内容、雰囲気の評価を上げる一因になったと考えられる。参加型の展示を設けることによって、来館者の興味を惹くことができたのではないかと考える。

なお、今回行ったシール投票の妖怪総選挙と地獄総選挙の結果は以下の通りである。

妖怪総選挙では化け猫が最も人気であった。自由記述の中でも猫がかわかったという感

妖怪総選挙（与謝蕪村 妖怪絵巻より）

1位	榊原家の化け猫	53票
2位	帷子の辻のぬっぽり坊	40票
3位	鎌倉若宮八幡銀杏の化物	35票
4位	林一角坊の前に現れた赤子の怪	33票
5位	横手のうぶめ	12票
	総得票数	173票

地獄総選挙（耳鳥斎 別世界巻より）

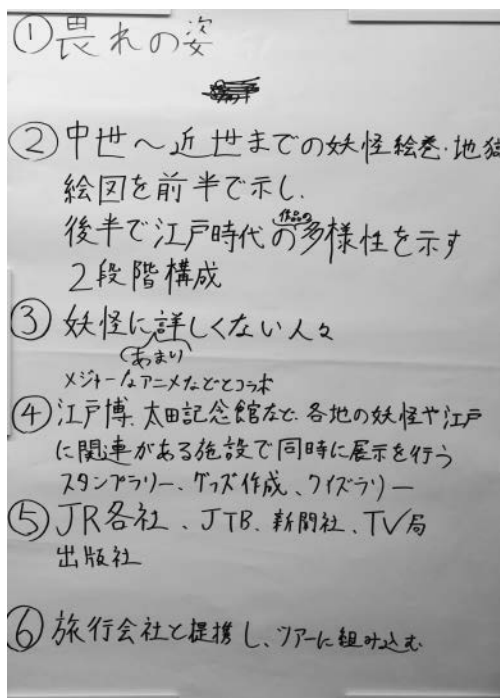
1位	歌舞伎役者の地獄	42票
2位	ところてんやの地獄	28票
3位	烟草好の地獄	27票
4位	立花師の地獄	23票
4位	そば切好の地獄	23票
6位	明神講中の地獄	19票
7位	錆道具やの地獄	9票
	総得票数	171票

想がいくつか見られ、猫という身近な存在に好感を抱いた方が多かったのではないかと考えられる。

地獄総選挙では歌舞伎役者の地獄が圧倒的な人気を誇っていた。釜茹でされている人間が笑顔を浮かべている姿や、「大根役者」という言葉とかけた洒落が来館者の興味を引くきっかけになったのではないかと考えられる。

全体の得票数及び各妖怪や地獄に対する投票結果から、多くの来館者に楽しみながら選んでいただけたことが見て取れた。企画の成果を見出せる結果が得られた。

（文17-3004 竹内美香）



実習展のふりかえり 展示企画案の再検討

茨木の潜伏キリシタン ―ザビエル像発見のエピソード―

【要約】

共通項目すべてにおいて平均値は4点以上になり、一定以上の評価は得られたと考えられる。

展示の内容については総じて高評価を得られた一方、展示の見やすさについては、4項目の中、唯一、「4（良い）」を選んだ人が多い結果になり、「3（普通）」以下を付けた人も約17%となった。

【方法】

全体の共通項目として展示内容、見やすさ、解説、雰囲気について5段階での評価を求め、その他に「茨木の潜伏キリシタン」の認知度を問う項目と自由記述の質問を用意した。

【結果】

〔1〕 共通項目について

5段階評価 5=大変良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=大変悪い

なお、各項目の合計及び算出した平均値には、無回答を含まない。

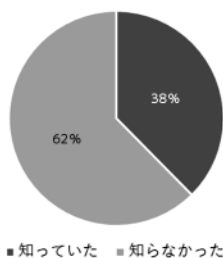
質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値	無回答
展示内容について	149人	109人	31人	4人	1人	294人	4.36	73人
展示の見やすさについて	111人	120人	51人	9人	2人	293人	4.12	74人
展示の解説について	137人	104人	46人	6人	1人	294人	4.26	73人
展示全体の雰囲気について	130人	103人	54人	4人	1人	292人	4.22	75人

〔2〕 各班独自の質問

当展示をご覧になる以前から、茨木市に潜伏キリシタンの方がいたことをご存知でしたか。

知っていた	82
知らなかった	136
無回答	149

茨木の潜伏キリシタンの認知度



〔3〕 自由記述の内容について（一部抜粋）

- ・興味深い事例であった。もっと深く知れた

くなりました。

- ・潜伏してまでも、キリスト教徒でありつづけ、家族や親族にも一部隠し、みなを命を守りつつ、そして今は消えてしまった歴史を知らなかったでは日本人としてすまされないと思いました。彼らの辛かった思いや、幸せを自分なりに考えることは、これからの人生にも有益であり、このタイミングで知ることができたのは本当に良かったと思います。ありがとうございました。
- ・日本史に興味があるので面白かった。
- ・展示の多さにびっくり。
- ・詳しく説明して頂いてよく分かりました。キリシタンのことは知らなかったので勉強になりました。
- ・初めの映像を見てから見たので分かりやすい。

- とても詳しく江戸時代のことがよく分かった。
- キリシタン博物館に行ったことがあるが、また一度行ってみたい。
- ザビエル像発見が茨木だったことが驚きだった。
- 潜伏や弾圧のイメージはなく、最近の世界遺産関係のメディアでも取り上げられていない内容で貴重な資料でした。
- よくこんな貴重なものが借りれたなあと驚きました。
- 潜伏キリシタンではなく、かくれキリシタンが正しい名称では？殆ど物を置いておらず、パネルばかりの展示だった。
- 知らないことが多かったので勉強になりました。
- どのように発見されたのかのパネルもわかりやすく、興味深かったです。
- 長崎は有名ですが、茨木にもいらっしゃったとは驚きです。
- 長崎との比較があればもっと興味がわいた。
- あけずの櫃について図の解説が分かりやすかったです。
- 現物より写真の方が多いイメージ。
- ビデオは理解しやすくなるので効果的だと思います。
- あのザビエル像は茨木から発見されたのに驚いた。
- 内容は悪くないが、そもそも展示である以上、実物の出品とその解説があるべきではないか？
- レベルの高い展示でした。
- 像の後ろに鏡をつけて、見やすくなっていて、良かったと思います。古文書の文字を現代の言葉に直すと多くの人が見やすくなると思いました。
- コンパクトに分かりやすくまとまっていました。
- 動画を導入にみせることで展示内容をみる前の知識が得られたことが良かった。
- 初めて茨木の潜伏キリシタンについて知りました。文字の解説と地図展示品のバランスが良かったです。
- 実家のお墓がある山から昔見えていた所がこういう歴史のある場所だと説明して頂いて勉強になりました。
- 資料入手が困難な中でよく集めて効果的に展示されていました。
- キャプション表記にわかりにくさや間違いが散見される。
- パネルがごちゃごちゃしていて見にくい。
- 解説が分かりやすく読みやすかった。
- 以前から気になっていたテーマだったので、興味深く見せて頂きました。
- 茨木の資料館に行ってみたいと思いました。
- 右近の説明「内容」のダブリなどキャプションをもう少し工夫すれば。
- 解説パネルは非常に詳細で良かったですが、少しふりがなが多すぎるように思いました。
- 展示品に様々な種類があり、日常の中にキリスト教が浸透していたことがよく分かりました。
- キリシタンやキリスト教が弾圧されたというだけの説明はフェアではないと思う。
- 隠れキリシタンと潜伏キリシタンの違いなど当時の日本のキリシタンの基本的な情報を入れて欲しかった。
- ふりがな間違っているところがありました。
- 解説も全て借りてきたものを展示している感があるが、自分たちの考え・言葉で表現しているか？
- 全体が独りよがりな展示のように感じる。
- 今流行りのテーマを取り上げて、なおかつそれが地元にもあったということを知ることができ、大いに満足した。
- 背面十字の恵比寿様見れて良かった。
- 展示場所にもよるのだろうが、順路が分かりにくかった。

- 大阪のキリシタンと言えば堺のイメージであり、キリシタンは九州の印象が強かったので茨木市に潜伏キリシタンがいたのは驚いた。
- ポイント部分の翻訳を示して欲しかった。
- 木像の背面に十字架を彫っているという展示で、その写真を取り、赤色で強調するなどすれば、分かりやすいと思った。
- 宗門改帳を開いてみせた方が良いのでは？
- あけずの櫃発見時のパネルが良かった。
- 聞き取りなどを通して得られたものを分かりやすく展示されていて、よかったです。
- 動画がある分、分かりやすかったです。
- 隠れと潜伏の違いを明示してほしかった。
- 展示品が多くて見所が多いのは良いが、つまりすぎのように感じた。
- テーマがテーマなので展示品が集まったことに凄いと思いました。
- 中ほどの立て札や壁画で話がとんでしまった気がしました。
- 順路を分かりやすくして頂きたい（前の展示との連続性、人の動線をもっと意識すべき）。
- ポスターにアピール力を感じました。
- 関大とイエズス会・バチカンとの関係を深めてください。（バチカン図書館との協定）
- ザビエル画、イコンの出自が分かりおもしろかった。
- この音声で、他の展示をみる際に気になった。
- 実物や映像を取り入れ興味深い。
- 自分の目で確かめたくまりました。
- できれば小冊子が欲しかった。
- 隠れキリシタンと聞くと、九州のイメージが強いが、大阪にもここまで資料が残っているのだと驚いた。
- ビデオ解説が、とても分かりやすかったです。
- 恵比寿像の工夫（鏡の利用）はいいと思いました。
- キャプションの文字が多く読んでいてしんどい。
- 現在についても少し触れたらどうですか？
- 刀の鐔など信仰を守るために、様々な方法でシンボルを盛り込んでいたことが、今までは知識としては知っていましたが、実際に見れて良かったです。
- 展示品とパネルの位置関係が分かりにくかった。
- 壁面パネルの文字が少し小さく見にくかった。
- 資料に説得力のあった。
- 解説が丁寧で良かった。
- 解説のイラストが分かりやすかった。
- 近畿の隠れキリシタンはいることも知らなかったので非常に興味を持った。
- ザビエルの絵が神戸市立博物館に所蔵されているのは知っていたが、茨木で発見されたことは知らなかったので驚いた。
- 畿内とその周辺のキリシタン大名・領主の図について、河内の領主が省かれているのが疑問。
- 茨木市の資料館存在は知っていたが、次回機会があれば訪問したい。
- ビデオの上映時間が長く、人の流れが滞ってしまうおそれがある。
- 立体的な展示物の後ろに鏡を置いたりして、隈なく展示物が見られて良かった。
- 解説も詳細で、情報量の多い展示で良かったですが、細かい資料とそれに付随する小さいパネルも多くて雑然としているなど感じた点のみ少し残念かな？ と思いました。
- 高槻市在住なのでとても興味深い展示でした。
- キャプションの背景の色は展示コーナー別に色分けした方が見やすい（分かりやすい）かもしれません。
- 関西には四条畷や東大阪にも隠れキリシタンの遺物が多く残されているので合わせて取り上げれば広がりが見られる。
- 実際に高札があったのはかなり興奮しました！
- 茨木の潜伏キリシタンが最も感心しました。大事な歴史の資料と語りです。大切な歴史

的なものと思います。さらなる研究を。

- フォントの不統一や原語に対するカタカナ表記の当て方に違和感があった。
- ごあいさつのパネルがケース内にあって、メインのザビエル像のパネルが下に追いやられていたのが個人的に気になった。
- 身近でありながら、知ることの無かった歴史について学べた。
- 宗教を求めるのは人間ならではというけど、それを禁止されていた中で現代まできちんと保管されて残っているものがあるということに宗教の根強さを感じました。
- キャプションで文字は大きいのが線の細いものがあり、やや見にくかった。
- あけずの櫃をもっと前面（はじめの方）に展示して説明しても良かったのではないかな。
- 茨木市でザビエルをもっとPRすると良いと思う。
- 全体的にパネルが多い印象だった。映像を流す工夫があってよかった。
- 禁札の説明があればさらに良い。
- DVDがあったことに驚きました。
- 台の上のキャプションは斜めに立てたりした方が見やすくなると思いました。
- DVDが備え付けられていて、映像でよく深く理解することができた。
- 漢字につけるふりがなは、漢字とそのふりがなそれぞれを合わせた方が読みやすいと思う。潜伏キリシタンといえば長崎のイメージが強いが、茨木にもいたことを知らなかったし、その違いがあるのが興味がわいた。
- 新しい知識を得ることができました。
- 潜伏キリシタンの方が、幕府から必死にキリシタンであることを隠しつつも信仰を続けており、信仰心の深さを知りました。
- ザビエルが親しみのある絵だったのでとても見やすかった。
- 潜伏キリシタンがどれほどの苦勞をしてま

で信仰していたのかが伝わった。

- 展示主旨は一番面白かった。資料が少ないのが残念。解説が分かりやすかったです。
- 見つかったザビエル像が分かりにくい。
- キリシタン班の調査内容は、特に素晴らしく、興味を抱いた。
- 貴重な物を見ることが出来て良かったです。
- 発表の流れ（章立て）も明確で見るとしては、とても勉強になり、より知りたいという興味を持たせるような展示だったと思う。
- スペースが狭いながらも、上手く展示できていたと思う。
- 教科書に載っているザビエル像や隠れキリシタン達が信仰の為にしていた工夫を実際に見れた。
- DVDによって大まかな流れを知れた。
- 茨木の中心街から離れた地方で秘かに伝承されている事を始めて知り感銘。
- 世界遺産に長崎が登録されたことにも関連づけられているのかと思いました。
- 高山右近はよく聞いたことがあったため、見ていて面白かったです。
- あけずの櫃が面白かった。
- 千提寺地図をもっと拡大した方が見やすい。
- 今の時代の問題であるジェンダー問題のように感じた。
- 家の近いところに自分の知らない歴史があり、驚きました。
- 茨木の資料館にも行きたいと思いました。
- 解説をしている時にずっとショーケースを見ていることが多かったので、聞いてる人の方も見た方が良い。

【考察】

共通項目の結果にも表れているが、内容については概ね高評価だった一方、展示の見やすさについては他の項目に比べ、多少低い評価となり、自由記述でも言及されることが多かった。

また班独自の質問である「茨木市の潜伏キリシタン」に対する認知度は、残念なことに「無回答」が最も多くなってしまった。一見すると他の項目と選択肢が異なり、見落としやすかったのかもしれない。視覚的にも工夫が必要だったと悔やまれる。無回答を除いた結果に関しては、事前の想定通り「知らなかった」が上回ったが、「知っていた」と答えた人が4割弱もあり、意外な結果だった。

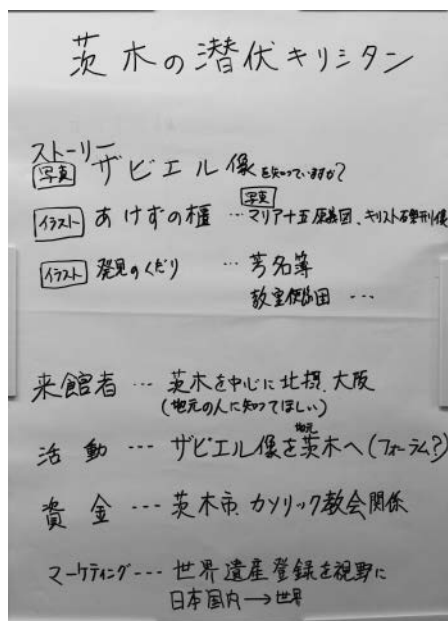
自由記述については、茨木にも潜伏キリシタンがあったということに対しての驚きの声や内容の充実さ、解説の分かりやすさに関するポジティブな意見が多く、他には展示品に関しては「恵比寿像やお皿を見ることができて良かった」「あけずの櫃のイラストが分かりやすかった」という声も幾つか見られた。

DVDの導入は展示の理解の助けになったという好意的な意見が多かった一方、音声が他展示の妨げになっているという指摘もあった。展示スペースに合った映像の活用方法を考える必要があった。

ネガティブな意見としては、キャプションの不備や展示の見にくさ、実物展示の少なさ、順路の分かりにくさを指摘する声が多かった。具体的には、キャプションに関しては「フォントが小さい」「誤字」「翻訳が欲しかった」、展示の見にくさに関しては「パネルの枚数が多すぎる」「パネルばかりの印象」等の意見が見られた。実際には実物の数も少なくないのだが、パネルの多さがそのような印象を与えてしまったように考えられる。また、限られたスペースで難しい部分でもあるが、「長崎との比較」、「隠れキリシタンと潜伏キリシタンとの違い」を問う記述もあった。準備期間の後半で借用できる実物が集まったこともあり、構成を考える準備にもう少し時間を充てるべきであった。

ただし、結果としては、多くの人から「茨木に潜伏キリシタンがいたのが驚いた」「見ごたえがあった」「大変勉強になった」という意見を頂き、展示の企画の趣旨を多少なりとも実現できたという点は評価できる。

(文履18-18 森崎 紀久子)



実習展のふりかえり 展示企画案の再検討